

キリストの再臨

シリーズ・パウロ

第24回

テサロニケ教会の問題

- 「わたしたちが命じておいたように、落ち着いた生活をし、自分の仕事に励み、自分の手で働くように努めなさい。」＜4:11＞
 - 「落ち着いた生活」をしていない
 - 「自分の仕事」をしていない
 - 「自分の手で働く」していない
- 原因は「**キリストの再臨**」についての誤解
 - すぐにキリストが帰ってこられるのだから、まじめに働いてもしようがない

キリストの再臨とは

- キリスト自身による予言(マタイ24～25章)
 - 「そのとき、人の子の徴が天に現れる。そして、そのとき、地上のすべての民族は悲しみ、人の子が大いなる力と栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見る。」<マタイ24:30>
- キリストが昇天された時の御使いの言葉
 - 「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」<使徒言行録1:11>

キリストの初臨と再臨の目的

- 「キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです。」
＜ヘブライ9:28＞
- 初臨**：身代わりの死によって人類を罪から救う
- 再臨**：キリストを信じ待望している人たちをあらゆる苦しみから救い出すため

「空中再臨」(携挙)について

- 「すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラツパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることになります。」 <1テサロニケ4:16-17>

「空中再臨」(携挙)について

- イエス・キリストが天から降って来られる
- 最初に「キリストに結ばれて死んだ人たちが」復活する
- 「生き残っている者」が引き上げられる
- 復活した者たちと生き残った者たちが一緒に
なり、空中で主イエス・キリストと出会う
- いつまでも主と共にいる

再臨に備えて

- 再臨の時期は誰にも分からない
 - 「兄弟たち、その時と時期についてあなたがたには書き記す必要はありません。盗人が夜やって来るように、主の日は来るということを、あなたがた自身よく知っているからです。」 < 5:1 >
- 再臨に備えて
 - 「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」 < 5:16-18 >

タベ雲焼くる

1. タベ雲焼くる空を見れば
主の来たりたもう 日のしのぼる
ああ 神の前に われいそしまん
業終むる時の 間近き今
2. ともしび掲げよ 主のおとめら
「花婿ぞ」と言う 声聞きなば
3. その日を待てる われらなれば
悩みも涙も など避くべき
4. 嘆きも涙も 天にはなし
御使いの歌う 声聞くのみ